

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能が定着していない部分がある。 <指導上の課題> 学習習慣の定着を促す指導について改善が必要。	⇒ 「スタディサプリ」「ドリルパーク」を活用し、基本的な内容の習熟に取り組み時間を設定する【毎週1度実施】。 定期テスト後の期間を中心に「家庭学習強化週間」を設定し、家庭学習の習慣化を促す【毎学期1度の実施】。 「家庭学習強化週間」の最終日に、基礎的・基本的な知識・技能を問う小テストを実施する【全学年正答率80%以上】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> さいたま市学習状況調査において、市平均正答率を下回っている。 <指導上の課題> 授業の中で『学びのポイント』を意識した取組をさらに増やす必要がある。	⇒ 各教科『学びのポイント』に即した授業を行い、主体的・探究的な学びの場を設定する【『学びの指標』の「主体的」「探究的」「ICT」の学校平均について昨年度+0.2pt以上】。 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実施し、特に自力解決・協働解決・メタ認知の場を設定する【さいたま市学習状況調査市平均+1pt】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、意見と根拠などの情報どうの関係を理解する力、文の成分の照応について理解する力に課題がみられた。また数学の「図形」「データの活用」において全国平均正答率をやや上回り、「数と式」「関数」においては、式に表現したり式やグラフをよみとったりすることに課題がみられた。特に「関数」については、昨年度も課題がみられた領域であった。	
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」において、自分の考えをまとめ分りやすく話す力に成果がみられた。「書くこと」においては、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する力に課題がみられた。「書くこと」については、昨年度も課題がみられた内容であった。数学の「数と式」「データの活用」において、式やグラフから意味をよみとる力に課題がみられた。また昨年度に引き続き、課題解決の方法を説明する力に課題がみられた。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	1学期中、学校全体での「スタディサプリ」課題配信は各クラス1.1回/週(187回)。「家庭学習強化週間」を1回実施、「家庭学習強化週間」後の小テストの正答率は全体で82%であった。	変更なし
思考・判断・表現	C	1学期の「学びの指標」アンケートにおいて、昨年度より「主体的」+0.11pt、「探究的」-0.02pt、「ICT」-0.26ptであった。	各教科の授業でICTを活用した「協働的な学び」を取り入れ、考えを共有したり比較したりする。【『学びの指標』の「主体的」「探究的」「ICT」の学校平均について昨年度+0.2pt以上】、【さいたま市学習状況調査市平均+1pt】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)